

アレルギーについて

花粉が飛ぶ季節、人だけでなく動物も花粉症で苦しんでいます。花粉症は実はアレルギー性疾患の1つだということは、ご存知ですよね？

?アレルギーってなあに?

アレルギーとは、免疫反応が過剰に起こることです。本来、免疫機構は体に入ったばい菌やウイルスなどを取り除くために備わっており、感染症を防ぐ為に働いています。しかしながら、花粉やたんぱく質などをばい菌やウイルスのような有害物質と体が認識してしまうと、花粉症や皮膚炎、下痢といったアレルギー症状が出ます。このように間違えて認識される物質をアレルゲンといい、個々にとって異なる物質がアレルゲンとなります。犬や猫では、アレルギーが原因でなりやすい皮膚病が4種類あります。その4大皮膚病について解説します。

アトピー性皮膚炎

どんな病気？

アトピー性皮膚炎は、花粉やほこり、ダニなどのアレルゲンを吸い込んだり触れたりすることで、皮膚に炎症が起こるアレルギー性の疾患です。3歳未満の発症例が多く、また遺伝的要因もあると言われています。特になりやすい犬種は、シーズー、柴、ウェスティ、ゴールデン・レトリバー、ラブラドル・レトリバー、フレンチ・ブルドッグ、などです。



症状

顔や手足、お腹などに強い痒みが起こり、患部をしきりにかいたり舐めたりします。皮膚が赤くなり、発疹や脱毛がみられることもあります。

皮膚のバリア機構が崩れるために、細菌やカビ・ダニなどの感染による皮膚炎を発症しやすく、さらに外耳炎や結膜炎などの合併症状を引き起こす場合もあります。

対策

アトピー性皮膚炎を確実に治すのは困難と言われています。また、完全に予防するのも難しい病気ですが、できる限り予防するように努力しましょう。室内環境を清潔に保ち、アレルゲンと考えられるものになるべく接触させないようにして下さい。

痒みや感染症がある場合には投薬が必要となりますが、普段の生活では皮膚を清潔に保つことが大切です。そして、皮膚のバリア機構を正常にするためには保湿も欠かせません。最近では皮膚の状態に合わせた様々なシャンプーがあるので、上手に活用し、乾燥する時期はコンディショナーも併用するのがお勧めです。

どんなシャンプーやコンディショナーがいいか分からないときは、ぜひご相談下さい。

食物アレルギー

どんな病気？



食べ物に含まれる特定の原料にアレルギー反応を起こす病気です。発症する時期は、1歳未満のことがほとんどです。どの犬や猫でも発症する可能性があります。食物アレルギーのアレルゲンとなるものは、主に肉、魚、卵、小麦、大豆、牛乳などです。



症状

皮膚症状としては、強い痒みや赤みなどです。目や口の周りが腫れてしまうこともあります。また、他のアレルギーと違って下痢や嘔吐などの消化器症状が出ることもあるのが特徴です。

対策

まずは、食物アレルギーであるという診断を確定したうえで、どの食べ物でアレルギー反応が起きるのかを特定することが重要です。原因の食べ物が分かればそれを与えないようにすることで予防が可能です。

これらの診断には血液検査が必要です。

血液検査を希望しない場合は、とりあえずフードを切り替えてみましょう。その時の注意点としては、現在食べているフードとは違う原材料を使っているフードを選ぶことです。しかし、この方法だとアレルゲンを特定するのに時間がかかります。

ノミアレルギー性皮膚炎

どんな病気？

体に寄生したノミが原因でアレルギー反応が起こる病気です。ノミに咬まれて、その唾液に含まれる成分に反応して皮膚病になります。犬・猫問わず発症し、ノミの季節は要注意です。1匹のノミでもアレルギーを起こすことがあります。

症状

主な症状は強い痒みや発疹、脱毛などです。かさぶたができることもあります。ノミに咬まれやすい背中から腰のあたりに痒みが出やすいと言われています。耳の後ろやしっぽのつけ根、肛門の周りなどにも多く発症します。

対策

ノミの寄生が原因となるアレルギーなので、ノミ駆除剤を使ってノミの寄生を予防しましょう。ノミは春から秋にかけて発生するので、毎年3月くらいから予防するのがいいと考えられます。皮膚に付けるタイプの駆虫剤なので、投薬は簡単です。また、ペットが寝ているベッドや毛布なども清潔にし、ノミやノミの糞がないかこまめにチェックして下さい。

寄生してしまった場合、まずはノミの駆除をします。また激しい痒みや、細菌などによる二次感染がある場合には、痒み止めや抗生物質などの投薬が必要となります。



接触性アレルギー

どんな病気？

ある特定の物質に触れることでアレルギー反応が起こる病気です。発症率は低いのですが、どんな犬・猫でも発症する可能性があります。

個体差はありますが、生活環境のいろいろな物質がアレルギーになり得ます。主な例として、プラスチック製の食器・おもちゃ、床材、カーペット、毛布、シャンプー剤、ナイロン製の首輪などがあげられます。長く触れているうちに、だんだんと体がこれらをアレルギーとして認識し始めると考えられます。したがって、使用し始めてすぐのものより、長い間愛用しているものがアレルギーとなるので、アレルギーの特定が難しいタイプのアレルギーです。

症状

特定の物質に接触した部位に痒みや発疹、赤みや脱毛がみられます。特に、お腹や目、耳、口のまわりや首など毛の薄い部分に多いようです。

対策

皮膚炎が起きている部位や症状を観察し、アレルギーを特定することが大切です。首のまわりだけに症状が見られれば首輪の可能性が、口のまわりに見られれば食器やおもちゃの可能性がります。原因物質が明確になれば、それを取り除くのが有効です。

しかし、他のアレルギーと違って接触性アレルギーだと判明するまでに時間がかかることもあり、原因を特定することが困難だと言われています。どの物質でアレルギーが発症するのか分からなかったり、または接触性アレルギーだと思っけていても違う理由で皮膚病になっていたたりする場合があります。

アレルギー性皮膚炎は、二次感染を引き起こしたり、完治するのは難しい病気ですが、検査をして、飲み薬や塗り薬、食事やシャンプーなどで、かゆみや皮膚病を抑えることができます。快適な生活を送れるようにお手伝いします。



Ohana

オハナ動物病院

Animal Clinic

TEL 052-801-9095